

國
立
博
物
館
藏
書

270
166

7

特61

757

森永清畔君編

因幡
岩井溫泉誌

岩井溫泉組合事務所發行

45. 5. 23

△ 所載要目 ▽

| | |
|------------|----|
| 一、緒言 | 一 |
| 一、温泉の沿革 | 三 |
| 一、順路と村の位置 | 五 |
| 一、泉質と醫治効用 | 七 |
| 一、共同浴場と同湯 | 九 |
| 一、入浴の注意 | 二一 |
| 一、旅館と宿料 | 二四 |
| 一、名所及舊蹟 | 二六 |
| 一、湯かぶり歌 | 三三 |
| 附録 新案汽車獨占ひ | 三六 |



泉 温 井 岩 國 幡 岡

△ 所載要目 ▽

| | |
|------------|----|
| 一、緒言 | 一 |
| 一、温泉の沿革 | 三 |
| 一、順路と村の位置 | 五 |
| 一、泉質と醫治効用 | 七 |
| 一、共同浴場と同湯 | 九 |
| 一、入浴の注意 | 一 |
| 一、旅館と宿料 | 一四 |
| 一、名所及舊蹟 | 一六 |
| 一、湯かぶり歌 | 三 |
| 附録 新案汽車獨占ひ | 二六 |



岩國縣 温泉井



岩井溫泉全景



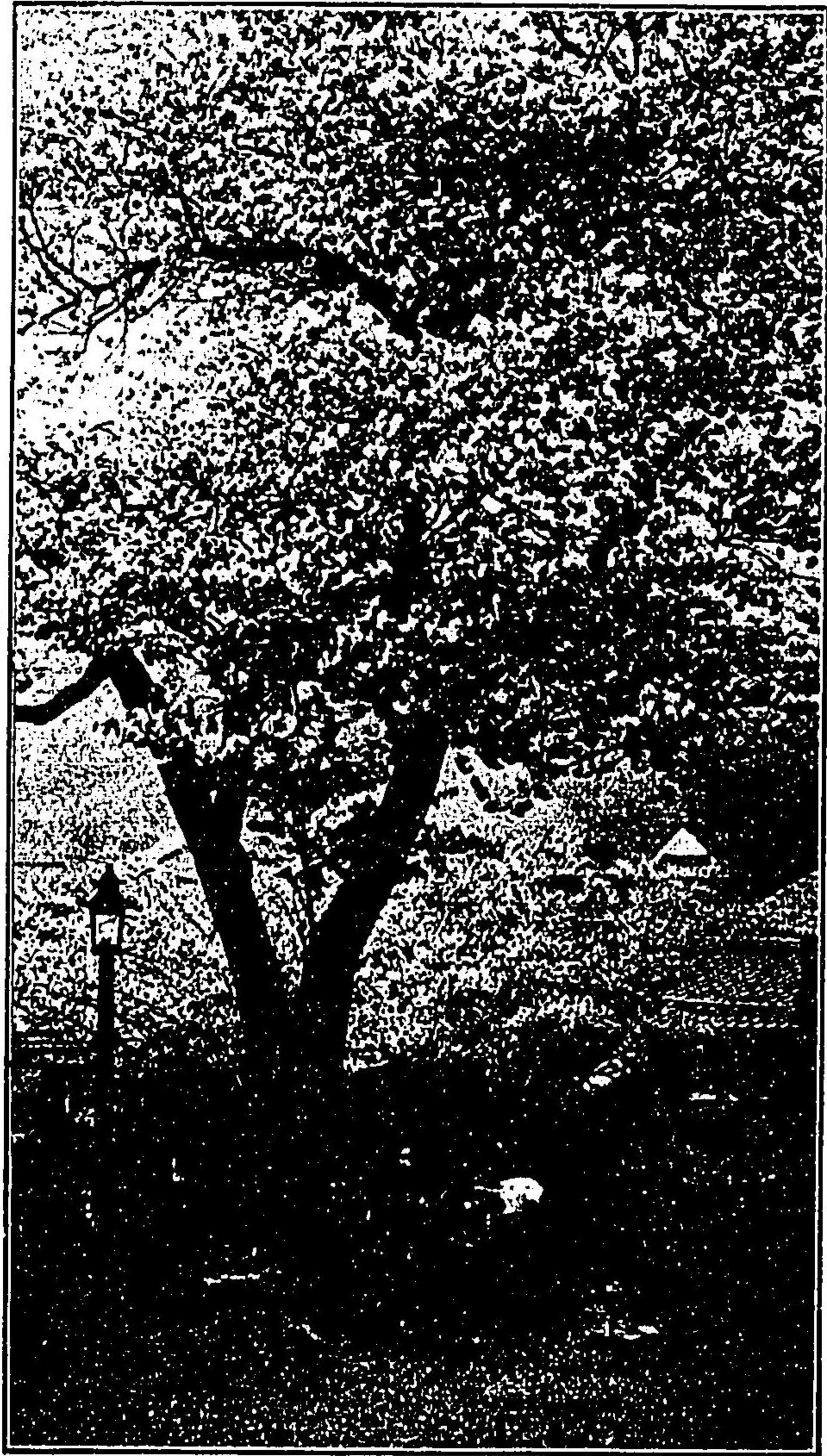
愛宕山公園

宿岩井溫泉

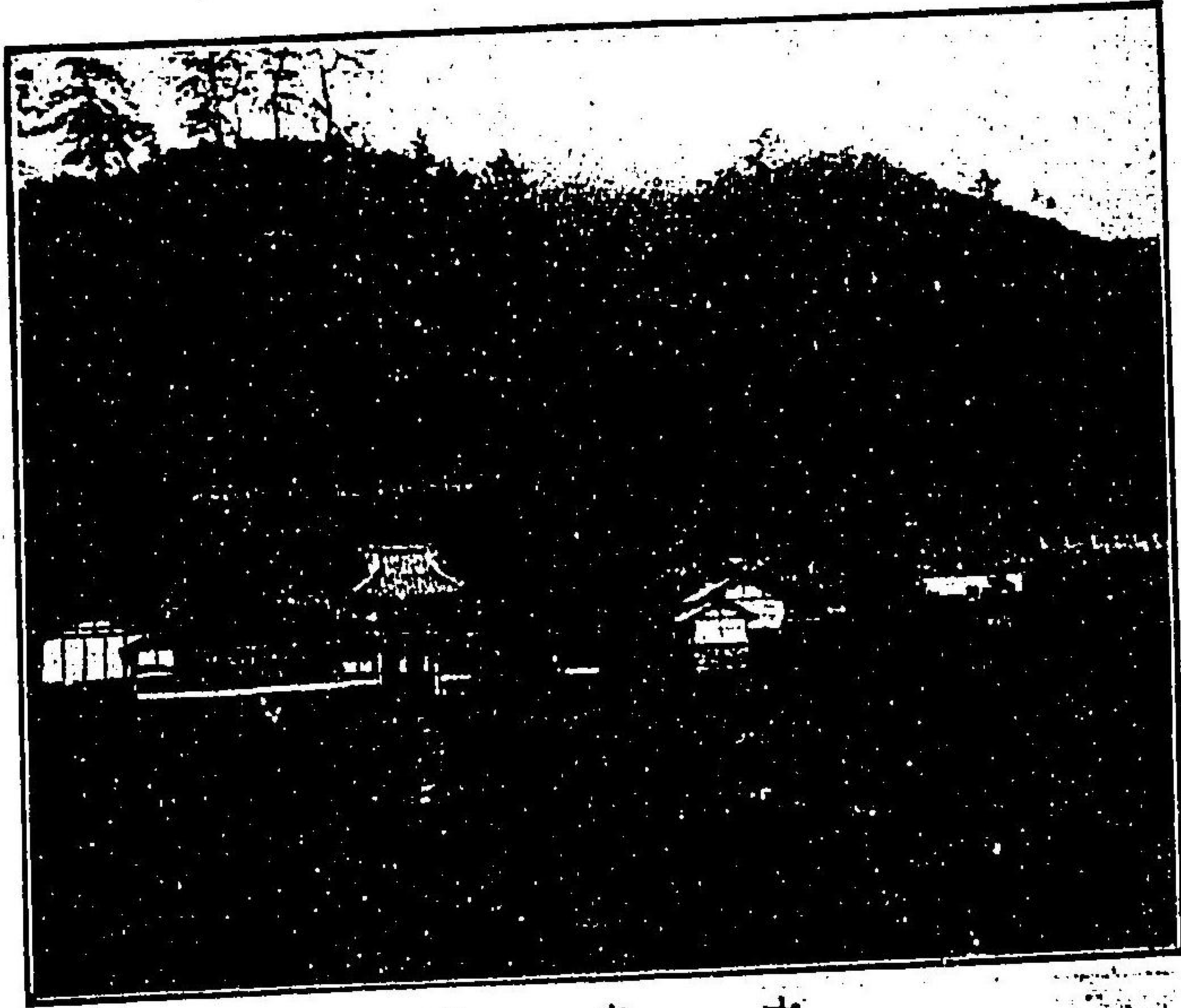
正堪適處

冠童六七儘隨行、
已入溪村忘俗務、
晴川一帶花神老、
今日君恩賜清暇、

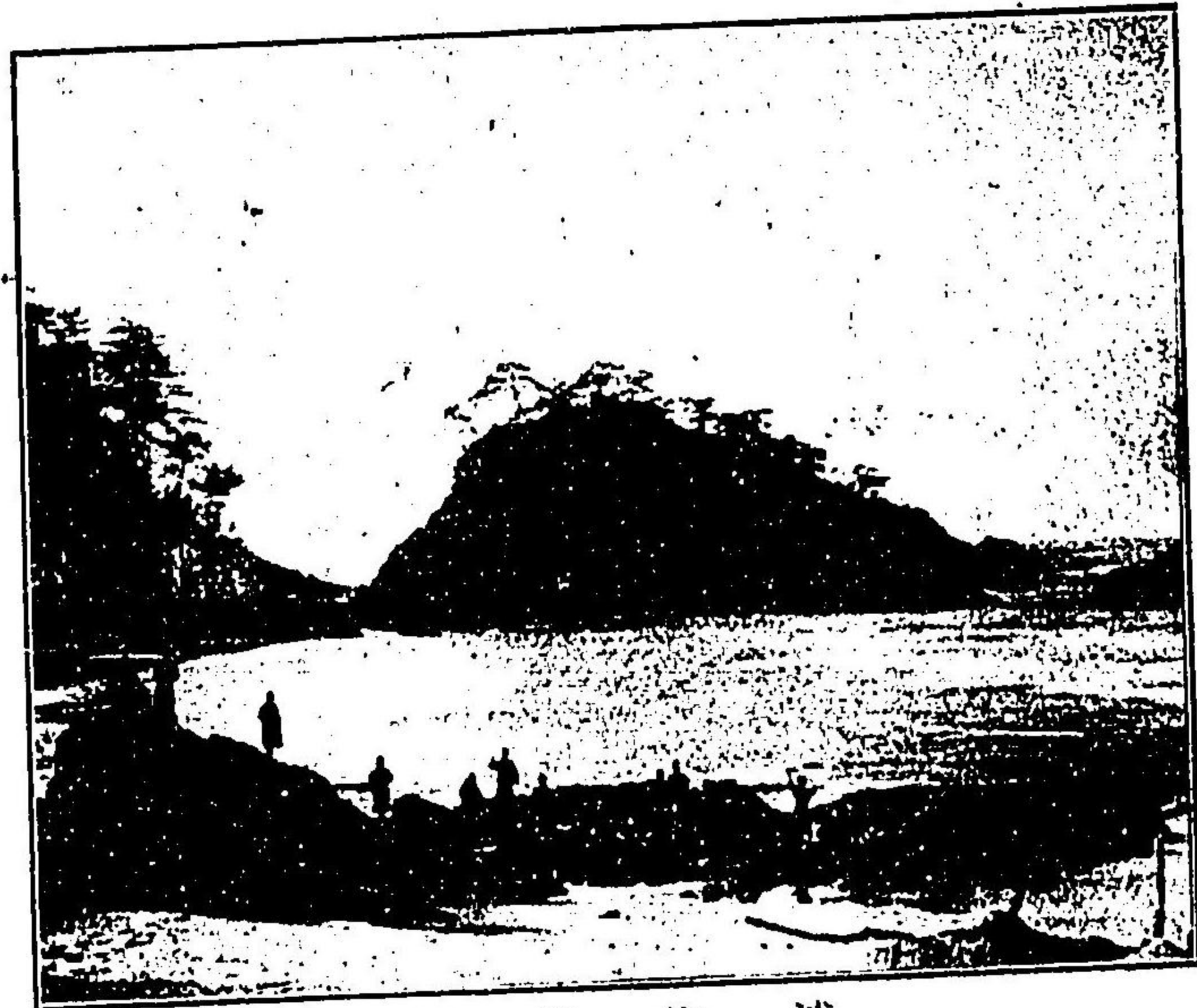
聊試盈々春服輕、
僅離城市卽風情、
綠樹滿山營意驚、
滄洲咫尺夢魂平、



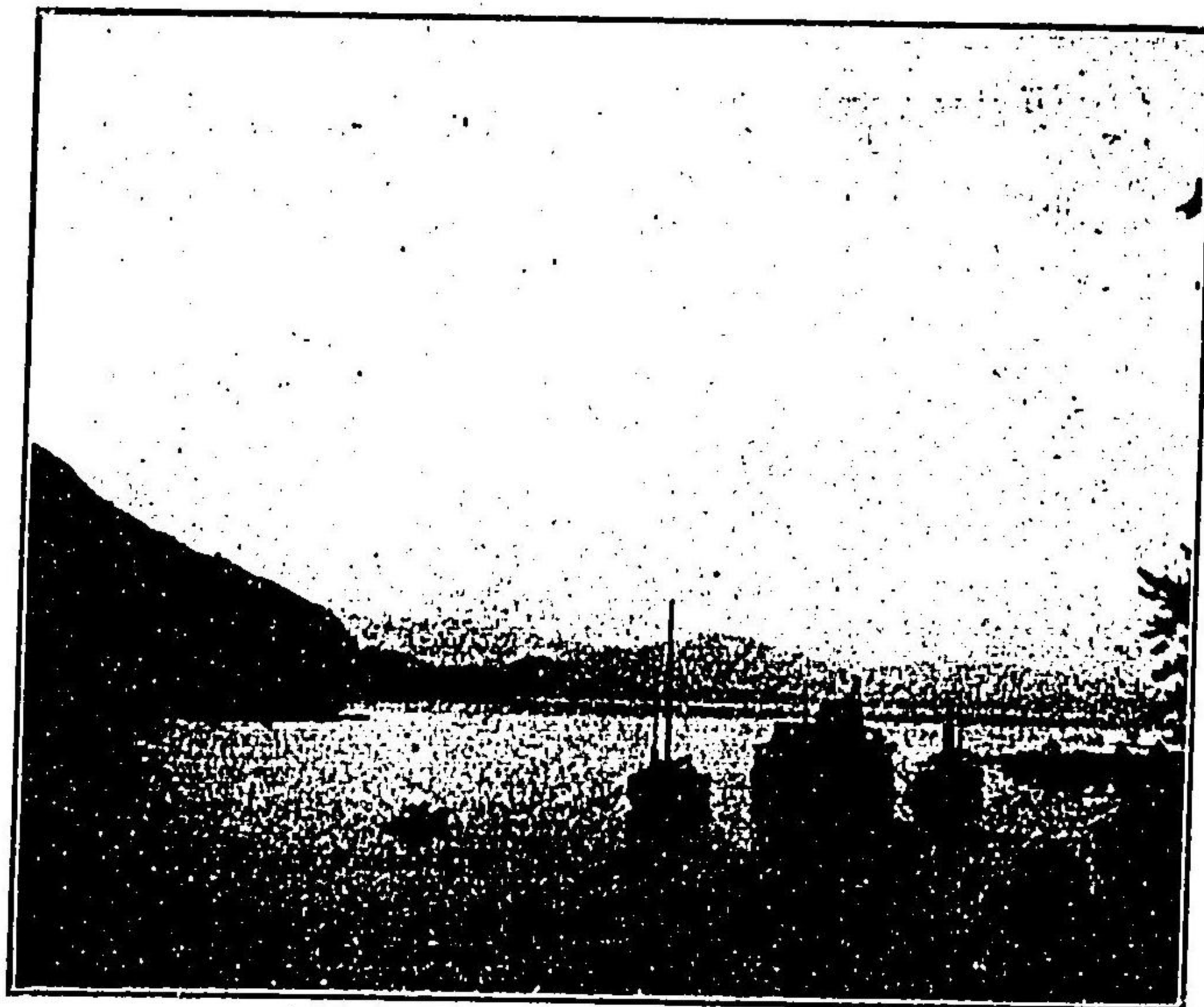
岩井薬師寺の櫻



本光寺



浦富海濱



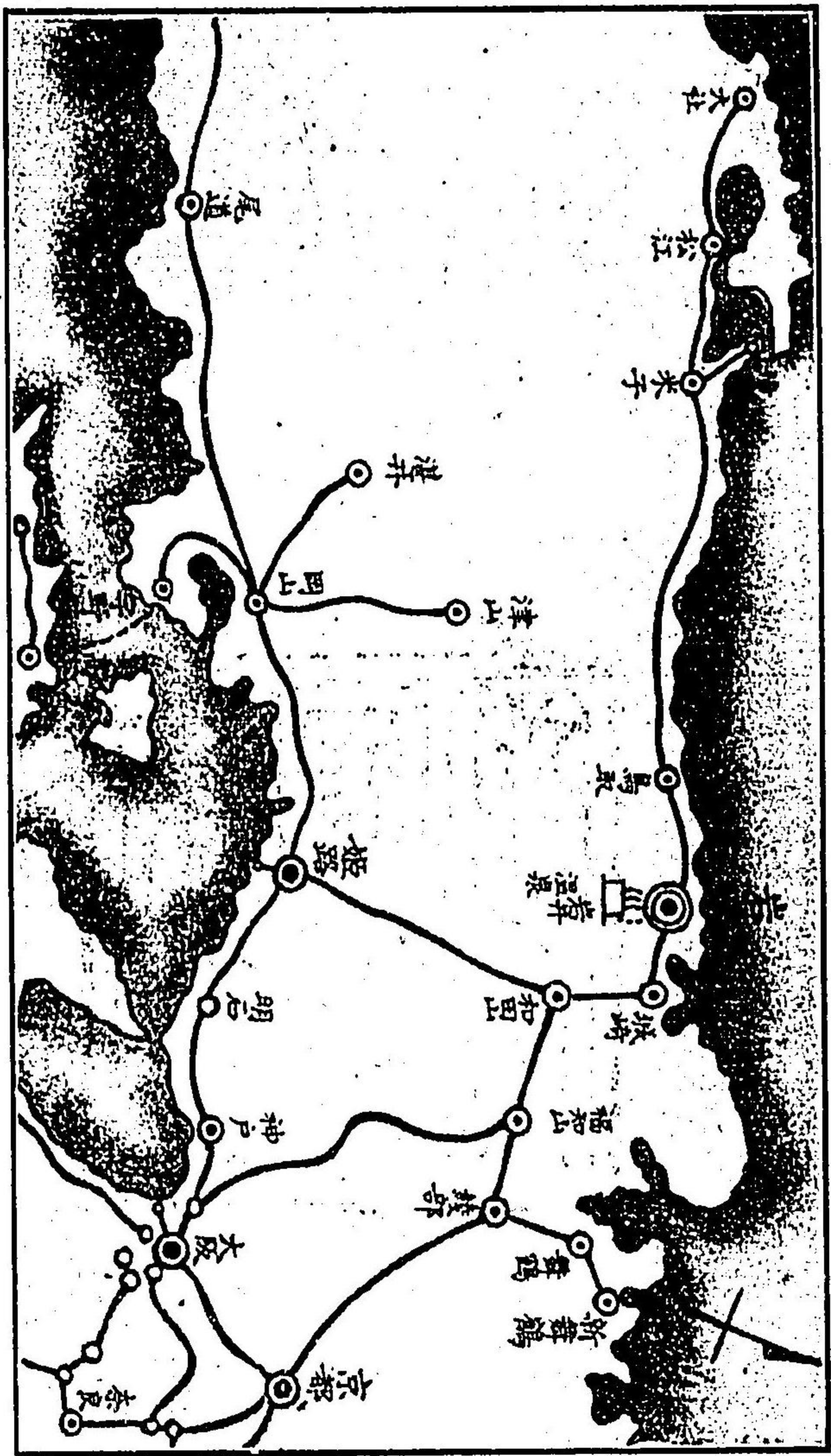
網代港



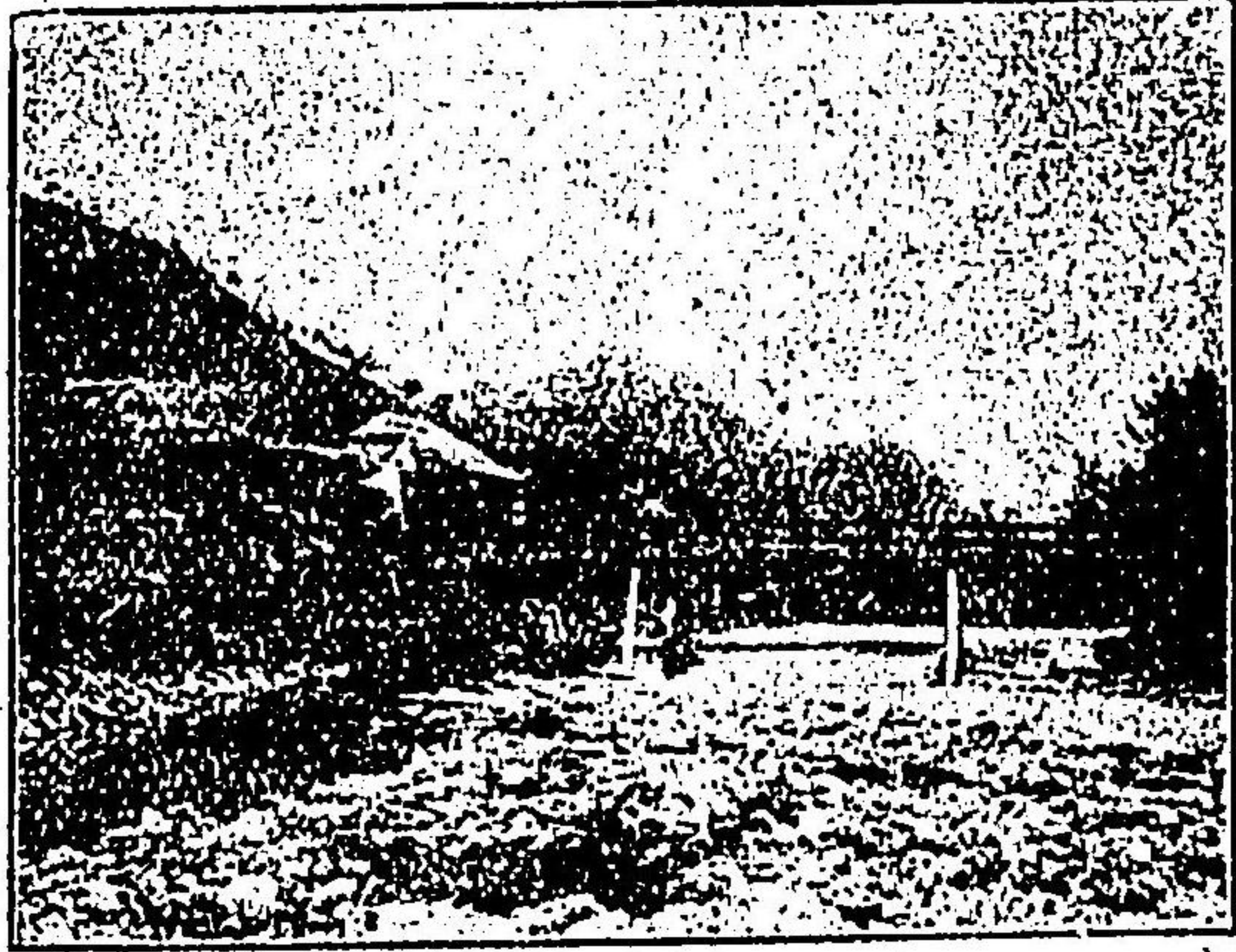
浦富海岸門島



雨漣



此の温泉は論語先進の地也
 依て説かれたり此の如く古来洋
 の東西を問はず温泉の効果が醫藥
 以上に及ぶるの例實に枚舉に遑か
 近年泉中に貴重なる新
 元氣を養ふに
 山部温泉記

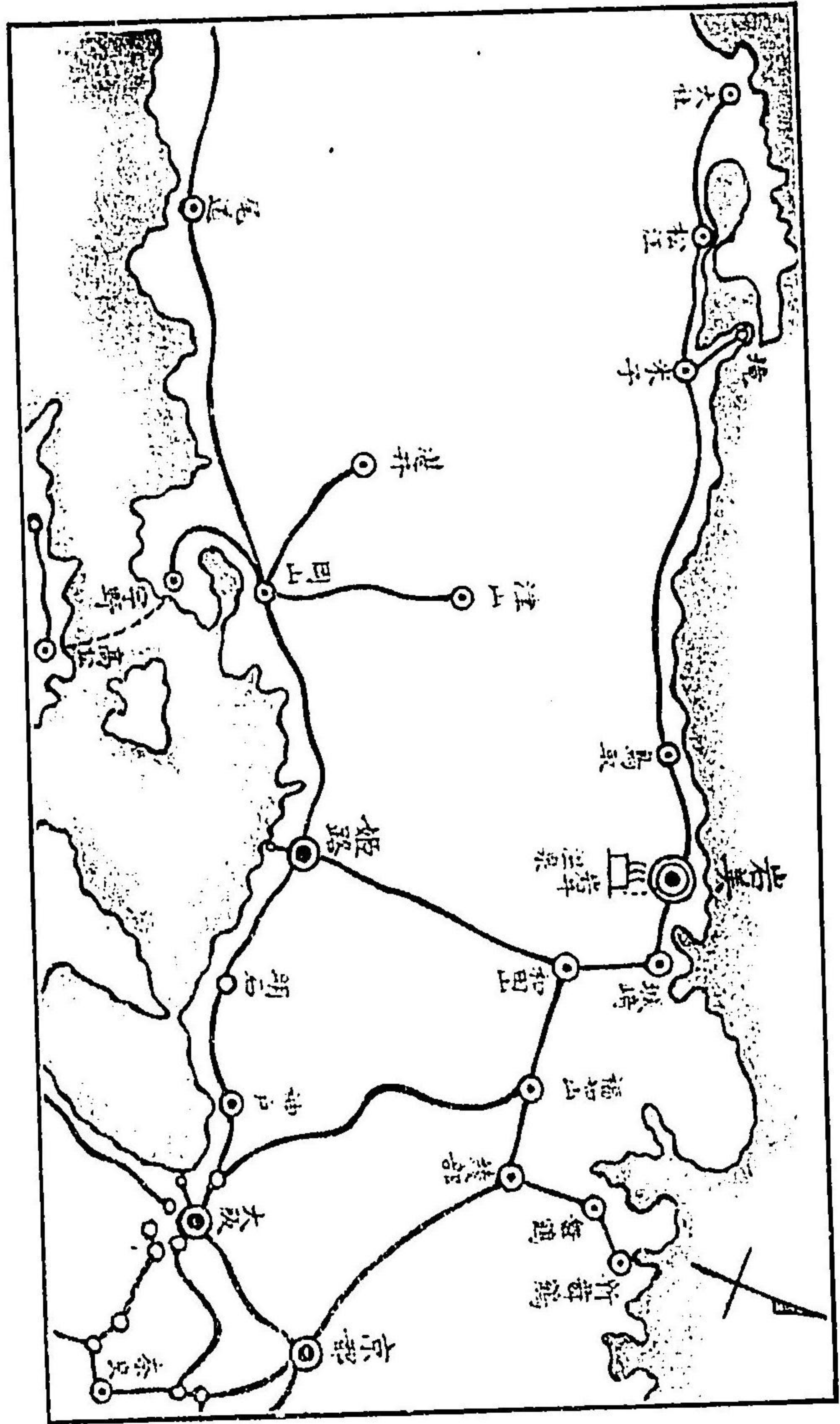


川生蒲と橋大井岩

因幡岩井温泉誌

緒言

浜の温泉は論語先進の篇に述べられ、シロアーの湯池は舊約全書に依て説かれたり、此の如く古來洋の東西を問はず温泉の効果が醫藥以上に及べるの例實に枚舉に違あらず、殊に近年泉中に貴重なる新元素ラジウムエマナチオンの包含



するを發見してより、天下翕然として益々温泉療養の効果を賞揚するに至れり、然れども單に泉質の良好を見て直に其効果を斷ずるは早計にして、土地の氣候、空氣、風光、人情、旅館等が果して浴客の心身に慰安適合するかを極むるにあらざれば、以て恰好の温泉と云ふ可からず、然るに我が岩井の地たる因幡の一隅に在りて、脂臘の香粉黛の美なしと雖も、泉質極めて好良なるに搗て加へて多量のラジウムを含有すれば、醫治効用の如き決して他泉に譲らず、而も氣候四時溫和に空氣頗る新鮮なるのみならず、彼の蒼波漫々たる北海は僅に里許の地に迫り、翠を攢むる山嶺後方を扼して、曉煙暮嵐の景致又賞すべきもの多し、其他風俗の素朴なる客舎の清潔なる湯

治鬱散の地として閑雅幽靜方今稀に見るものあるは密に山陰道の誇とする所也、乞ふ少しく語らしめよ。

温泉の沿革

常泉は古名を蒲生湯又は島根の御湯或は銀湯と稱し、涌出は遠き神代に屬して今之れを詳かにせずと雖も、口碑の傳ふる所に依れば初めて浴槽を開設せしは仁明天皇承和年間左大臣藤原冬嗣の裔冬忠の第二子に當る冬久卿にして、卿は山城國宇治の館に産れ性仁愛漸く長ずるに及び、其母己を愛して阿兄を廢せんとするの意あるを覺り狂氣を伴ふて家を逃れ、諸國を放浪して終に此地に隱棲せり、或日

適々郊外に遊びて道に神女に遇ふ、神女河畔に滾々たる涌泉を指して我は醫王なり汝を俟つこと久し、宜しく此泉を開拓して衆生を救ふべしと、言終るや忽然として行く所を知らず、茲に於て冬久佛徳報恩の爲め自から醫王の尊像を彫り、宏壯なる佛殿を造營して之を安置し湯營山如來寺と號し、傍ら資財を散じて浴槽を營み貧困なる病者を恤みしかば、其徳四隣に普く宇治長者の名一世に喧傳せらる此事貞觀年中清和天皇の叡聞に達し甚だ奇特なりとて、土地及木材を下賜せられしを以て更に浴場を新築し益々繁昌を來せり、冬久天壽を全してより其子孫連綿として經營に勉めしが、惜哉元享年間平高時の兵亂に罹り浴場又廢絶に歸せり、爾來風雨三百年寛永十五年

池田光仲因伯の太守として封に就くに及び、靈泉の廢滅を嘆じて之れを再興し、漸次浴客蟬集すると共に公卿貴紳の來浴せらるゝもの多く、以て今日の隆盛を見るに至れり。

○ 藤原朝臣顯仲

夜と、もにしたに焚く火はなけれども

しま島の御湯のさむるともなし

順路の村の位置

京阪神其他の地より當泉に遊浴せんとせらるゝには、京都以東は京都驛より山陰線を一直線に、大阪以南は阪鶴線に依り福知山にて山

陰線に乗換へ、又神戸以西よりは姫路驛にて播但線を和田山に於て
列車を換へ、城崎を経て岩美驛に下車すれば、驛前より砥の如き坦
路南に向て走るを見るべし、是れ岩井温泉に達する新開の道路にし
て、岩美停車場より岩井村に至る距離僅に一里五町、拾五錢を賃す
れば人力車約半時間にて到着す、地は鳥取縣の管治に屬する因幡國
岩美郡の東北に位し、東南は蒲生銀山の諸峰屏立し西北は千頃の田
野開け蒲生川潺々として村内を貫流す、按ずるに古書に石井郷とあ
るは即ち此の岩井村にして鐵道開通以前に在りても既に因但交通の
衝に當りしを以て、今後の發展蓋し大に見るべきものあらん。

○

子

規

草花の一筋道や湯元まで

○

堀 敦 齋

已領温泉勝、更添水與山、雲邊青欲滴、柳蔭白成灣、
景以有詩寫、心因無事閑、登仙途咫尺、鶴背穩堪攀、

泉質の醫治効用

泉源は村の中央に一箇所在りて攝氏五十五度の溫度を保ち、晝夜間
斷なく湧出する無色透明無臭味の鹽類泉にして泉量頗る豊富なり、
今其筋の分拆試験に依れば弱アルカリ性の反應を徴し、煮沸すれば
其性を増加す、比重は攝氏十五度に於て一、〇〇一五に當り、毎千

分中一、九一六分の固形物を含有す、其成分及び量目を擧ぐればラジウム元素は勿論、クロトルナトリウム〇、三四一、硫酸カリウム〇、〇六二、硫酸ナトリウム〇、九二五、硫酸カルシウム〇、二四四、重炭酸カルシウム〇、二六六、重炭酸マグネシウム〇、〇二五、
〇七三、此他磷酸、硼酸、鐵礬土等を包含するを以て、慢性關節レウマチス、關節炎後の強直、慢性婦人骨盤内結締織炎、子宮内膜炎、慢性卵巢炎、疝痛、慢性膀胱カタル、慢性胃腸カタル、
筋膜炎回復期、痔核、慢性神経痛、慢性脚氣麻痺胃弱等の諸病に偉大なる特効を有す、故に古來瀕死の重病不具者が根治せし話柄の傳はるは決して妄誕無稽にあらざるを知るべし。

○

昔よりさむるともなきこの國の

柴山朝臣國豊

島根の御湯や神の守れる

共同浴場と内湯

泉源を圍める共同浴槽即ち總湯と稱するは、各旅館に滯留する一般湯治客の浴場にて、特別湯(俗に幕湯)男女用二槽、普通入込湯男子用二槽、女子用二槽都合六區に分別せられ、入浴温度は寒暖宜しきを得たれば他泉の如く冷水を注入して効果を減退せしむるが如き事なし、此外各旅館には孰れも鐵管を埋没して熱泉を誘致し所謂内湯

の設けあれば、歩行困難なる人又は風雨に際し入浴煩はしき時など頗る便利にして、而も温度、効能敢て總湯と異なることなく深夜早朝と雖も入浴時間に制限なきは實に當泉の特色なりとす。

○

衣川長秋

よの人の病いねとおほなむち大汝

すくなひこな小彦名のつくらせりけん

○

鷺 少

御湯清しいつこの菊の流れなる

入浴の注意

入浴に先ち心得へらるべき事を左に項を分ちて誌したれば、之れを勵行せらるゝに於ては温泉の效果更に顯著なるべし。

一、浴場に行かるゝ際は必ず浴衣を着換へらるべし

一、初めて入浴する時は男女の別なく直に頭髪を洗ふを可とす、

洗料は卵、洗粉、上等石鹼類を可とす

一、入浴は一日三回を適度とすれども、病氣の模様によりては一日一回位に止め置き、漸次回数を増すべし、初めより幾度となく入浴するは却て身體に害あり、又食事前後は決して入浴すべからず

一、入浴時間は其人に依り異なれども、先づ十分間より二十分迄

を適當とす、然して後又一度這入り同じく十分間位にして出浴せらるべし、餘り長湯する時は眩暈を催し往々卒倒する事あり特に注意せらるべし

一、温泉を飲用する事は一回に一合以内一日三回を適度とす、又咽喉加答兒、口内炎、齒齦炎等口内の疾患には外用として度々含嗽するを可とす、是れ泉中コロムカルシウム等の斯病に効能ある成分を含有する故なり

一、浴後は乾きたる手拭にても充分汗を拭取り後衣服を纏はるべし

一、浴後は室内を明放ち可成空氣の流通を宜くし、靜座して讀書

其他精神を勞せざる娛樂を爲すべし、決して蒲團の内に眠り又は室を密閉して汗を爲すが如きは大害あり

一、湯治中は朝夕一定の時間を劃し郊外の名所舊蹟等を探り勉めて俗事と遠ざかるべし

一、入湯期は三週間乃至五週間を可とすれども、一年限りにては其効少し、二三年重ねて來るべし、是れ俗に迎湯と稱へ効果著し

一、總て温泉療法は身體の外部より温めて内部を治療するものなれば、隨て身體に當ること荒く、入湯中時に甚だしき疲勞を覺ゆるも、歸宅後其効能現はるれば兎角辛抱を第一とす

○ 小泉 支賢

○ 盛沸温泉岩井郷、井華清烈暖如湘、靄塵忽起蒸蒸氣
水脈常溫生熱湯、驪岫泉飛秦始祖、華清池浴李三郎
洗腸_ニ浹骨有神驗、眞澄仙域壽無疆、

旅館の宿料

旅館は共同浴場を中央に圍みて三階造り二階造り等宏壯に建築せられ、間口又廣濶にして客室多數を有し室内頗る清潔なり、殊に孰れの旅館も空氣の流通山水の眺望に注意して間取りを爲し、各室電燈電鈴を取附けたれば温泉宿としての設備決して他に劣らず、宿料は

從來下宿的制度を取りたるも近年之れを旅籠制度に改正し、入湯宿料として普通一日五拾錢乃至壹圓の範圍に定め、其他は浴客の需に應じて如何様ともする事とせり、而も此地海濱を距る僅に里許なるを以て、魚介類の新鮮にして安價なる多く其比を見ず、猶和洋酒菓子類、鶏牛肉、牛乳、野菜果實等需めて得ざるなく、新聞雜誌小説類に至る迄調はずと云ふ事なし、今著名なる旅館を擧ぐれば角屋、岩美館、駒屋、明石屋、花屋、岩井屋、備前屋、木島屋の八軒とす。

○ 富小路朝臣眞直

しるしあれば湧きかへるごと行きかへり

島根の御湯につごふ諸人

名所及舊蹟

浴後の散策は名勝舊蹟を探るを以て第一とす、故に左に附近著名なるものを記して探討の榮となさん。

○御湯神社 今當村の氏神に齊ぎ温泉を距る僅に五町の所に在り、延喜式内の古社にして大貴已尊を奉祀す、社殿宏壯ならずと雖も境内には松椎の巨樹蔚々として繁茂し人をして神威自から嚴かなるを覺へしむ、其社殿の傍に能登守教經の矢研石と傳ふるもの存り、長さ二尺四寸横八寸許りの石面に雁股の鏃の跡歴然として残り、又茲より約二十町を隔てたる相山村には參議經盛の墳塋と

呼ぶ一基の塚あり、思ふに此地往古平氏に因縁ありし者の隠棲せしものならんか、記して以て史家の考證を俟つ。

○彌勤寺の礎石 御湯神社の華表の右側田圃中に在り、長さ一丈二尺横八尺の大石にして中央に直径二尺餘の深き穴あり、口碑の傳ふる所に依れば上古此附近に彌勤寺と云へる一大伽藍在りて法燈頗る灼然たりしも、何時の頃にか頽敗して此の礎石を残すのみと土俗今此の礎石を指して鬼の碗と云ふ、其何んの故なるを知らずと雖も察するに御湯社の神官姓を渡邊と云へば或は大江山の鬼退治などに附會して斯く呼ぶならん乎。

○長者の屋敷趾 御湯神社より約二町行きたる所に、高さ八九間廣

さ三反許りの小丘あり、是れ清和天皇の御宇初めて當温泉を開設せし宇治長者冬久の住みし邸趾なりと云ふ、因幡誌に昔は此邊の土中を掘れば古瓦出で、其土色黒くして烏羽玉石の如く裡に青海の紋を押出し鮮かなること梓にて刻めるに似たり、陰瓦には八重菊を押起し其周圍には飛々に金箔を焼入るとあり、當時如何に其邸宅が壯麗なりしか推して知るべし、

○藥師寺 愛宕山公園の麓に在り、初め湯營山如來寺と號せしが今醫王山東源寺と改稱す、清和天皇の御宇宇治長者冬久の建立にして、堂内には長者自作の藥師如來を安置す、古來當寺の境内には櫻樹甚だ多く陽春の候に至れば花爛熳として境域を埋め美觀言語

に絶す、故に花時騷人雅客の節を曳くもの多し、又當寺の東に西法寺西に定信寺在り共に幽雅愛すべき庭園を有す。

○愛宕山公園 藥師寺の境内より羊腸たる路を辿れば山頂の一角に設けたる休憩所に達す、園は近年浴客の遊散地として開拓せるものにて、帶の如く北流する蒲生川を挟みて岩井の村落脚下に展開し、蛇山の支峰起伏連亘する所因但街道隱見して寸人豆馬の來往一瞬に萃り囁目甚だ佳也。

○長安寺 當村より北五町宇治村に在り、村名は山城宇治に因みたるものにて寺は同じく冬久の草創に係ると云ふ、本尊には行基自作の靈像を安置するも堂宇又古への面影なし、左れど土地高燥閑

雅にして境内に瑠璃の如き清水湧くを以て、夏時參詣を兼ね納涼に來るもの夥し。

○本光寺 當村より約八町蒲生川の對岸に在り、禪宗の古刹にして樓門、本堂、庫裏等建連り前に田圃開け後に山を負ひ閑清掬すべし、若し夫れ浴後住僧を訪ふて後山に祀れる蛇骨祠の由來を尋ねん乎、珍談奇話裕に半日を費すものあらん。

○岩井八景 古來文人墨客に依りて選ばれたる八勝あれば下に掲出して一餐に供す、愛宕靈燈、長峰翠月、蒲流爭釣、宇臺黃波、養老螢狩、長安晚鐘、島根納涼、恩趾曉雪。

○雨瀧 當村より約三里大茅村に在り、奔下十三丈幅約六尺、水尾

岩角に觸れて白沫四散し近けば衣襟爲めに濡ふを以て此名あり、附近布引瀧及宮瀧あり、水聲琴々として潭底を撲ち玉と碎け花と散る、故に盛夏納涼に適す。

○浦富海岸 上述の名勝舊蹟を探られたる人は更に腕車を驅りて、當村より一里半を隔てる浦富港を訪はるべし、此地の西方網代に至る約二哩の海岸は風光恰も陸の松島に似て而も豪壯彼れに勝れるものあり、即ち巨象の鼻を屈ぐるが如き門島、長鯨の吼ゆるが如き觀音島、春時一簇の黃雲鬢鬢たる菜種島、又因幡侯が我が庭園に移すものには祿千貫を與へんと賞揚せられし千貫松島、其他無數の青螺北海萬古の碧潮に泛びて千態萬狀、白鷗常に群飛する

の壯觀奇景能く筆紙の盡す所にあらず、殊に浦富及網代海濱は盛
夏海水浴の好適地とす。

○

霞 遊

神守る御湯や岩井のもろくが

あらん限りの寶なりける

温かぶり歌の奇習

古來常温泉には浴客が歌を誦ひながら杓を以て頭上より湯をかぶる
の風習あり、是れ不知不識の間に身體の諸機能を働かしむるもの
に、聊か喧騒の嫌あれども兎も角保存すべき趣味ある風習なれば、
多數の謠歌の中其一を掲げて茲に筆を擱かん。

忠臣藏盡し

ひきぬき手おどり三番は申すに及ばず、藝題は忠臣三つに四つ
に五でも六つ七な八つは初めのおとよ。

○初めのおとよ 音に名高い鶴ヶ岡にて新田のを兜改め目きゝの
役目は顔代御前で花の姿のやさしき師直見初めて玉章送りた

○はたち 二世とかわせし力彌の上使に小浪どりつぎ奥の間で
本藏松きり主人を諫めた

○ねいさん 參勤交代當時日の出の足利將軍もてなし役目が鹽谷
判官師直雜言殿中の喧嘩で綱乗ものだよ

○しまだ 四季に絶へなく花は開けど開かぬ御門を入り來る上使

は石堂薬師寺兼て覺悟の判官様は無紋の社袴兩肌ぬいで息急ぎ
駈來る家老の大星無念の忠義を九寸五分をば預り置ます

○權兵衛 御恩忘れし斧の定九郎猪と見られて打止められしは運
のつきだよ

○六助 無理な御金で御役に立たぬと突き戻されたで勘平切腹疵
口検め乗せ行く連判帳だよ

○お七 長き月日を一文字屋にて身を持ちくづした大星様よ二階
でお輕はのべて寫して讀んだ文句で身受の相談妹喜べ東の御と
もが叶ふたく

○おばさん 遙々古郷放れて長の旅路に山坂打越し小浪引きつれ

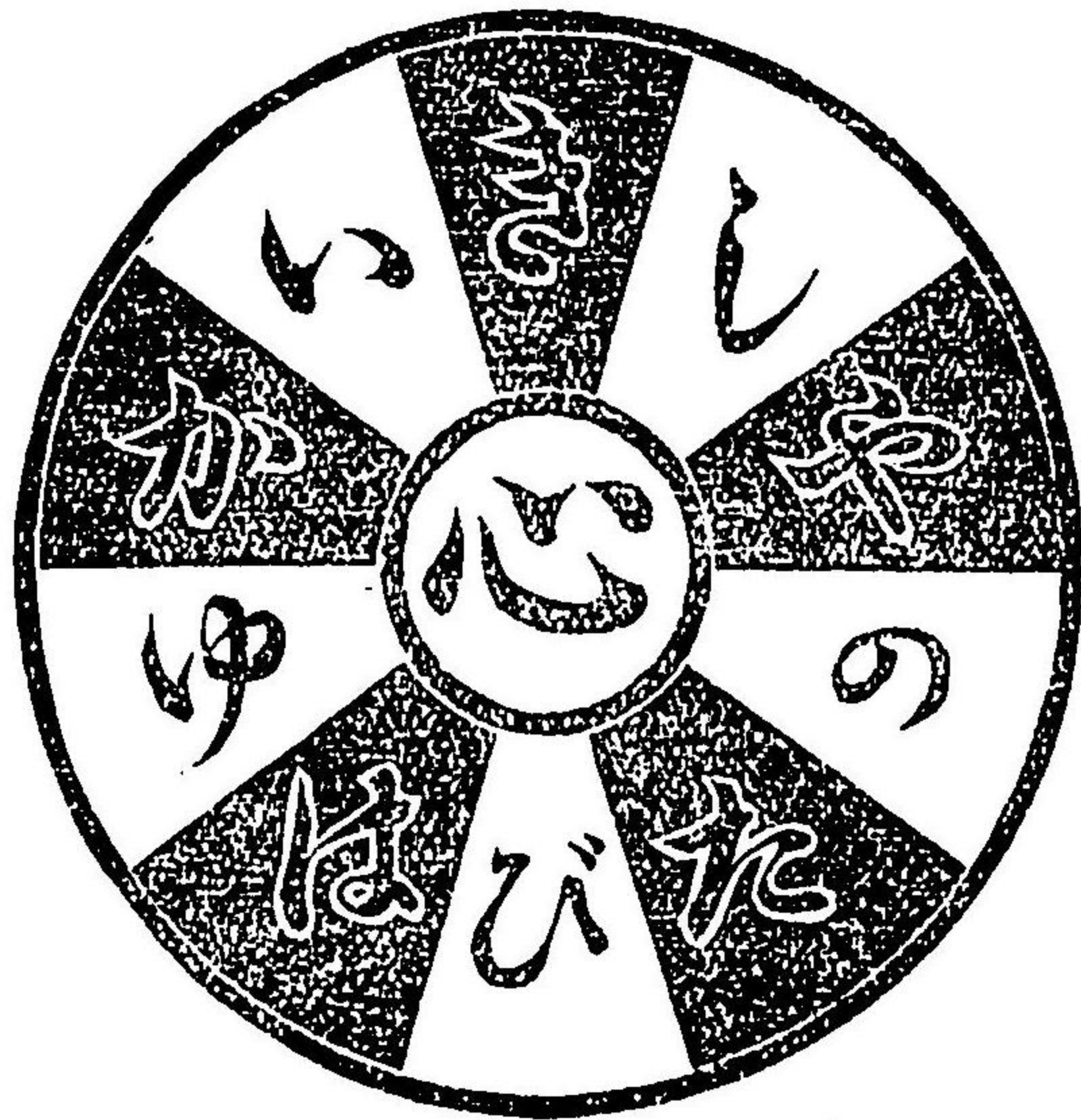
山科さしてぞ大星方にと急いで行きます

○おくさん 奥の間で祝言させよと聲は慥かにお石様だよ白木
の三寶に夫の二た腰おつと違ふた本藏の首だよそれを知りつゝ
入來る本藏は我れと我が手で力彌の鎗にて自害をなせしも浮世
の義理だよ

○一百おさへた おさへたへさへた押へて打たる敵の首をば四十
七士は墓に供へて木望とげたと焼香なされた今の世迄も忠臣藏
とて日本の鑑だ



占の符號



新案 汽車獨占ひ

皆様が當温泉へ御出掛け御歸りの汽車中又は御滞在在中御退屈であらうと思ひまして、御慰みの爲めに茲に附録としました。

うらなひ方

目をふさいで楊枝か何にかで符號の文字をついて見るのです例へば假に(か)の字をついたとする其時乗つて居る汽車が二等車であつたら(二等車に乗れる人)としてある表を見て縁談を占ふのでしたらその縁談の筋と(この筋は縦です)その(か)の筋と(この筋は横です)の出合ふ處を見ると(九ノ八)といふ字がありますそこで奥の判断書の九頁の八の所を調べると(調ひます而し少しは口説があります)である是れでそれ判断がついたのです萬事恁う云ふ風にして占ふのです御わかりに成りましたでしやう。

⇒{人るれ乗に車等二}⇐

| 待 人 | 戀 愛 | 縁 談 | 貧 富 | 信 用 | 賣 買 | 日 的 | 旅 行 | 天 候 | 運 勢 | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| 一 十 | 九 九 | 五 八 | 四 七 | 八 六 | 二 五 | 三 四 | 七 三 | 一 二 | 五 一 | き |
| 四 十 | 一 九 | 七 八 | 九 七 | 一 六 | 十 五 | 五 四 | 五 三 | 七 二 | 九 一 | し |
| 七 十 | 三 九 | 三 八 | 十 七 | 三 六 | 五 五 | 九 四 | 三 三 | 四 二 | 三 一 | や |
| 十 十 | 二 九 | 六 八 | 八 七 | 五 六 | 九 五 | 八 四 | 六 三 | 八 二 | 六 一 | の |
| 九 十 | 五 九 | 十 八 | 六 七 | 二 六 | 七 五 | 十 四 | 十 三 | 二 二 | 十 一 | た |
| 六 十 | 八 九 | 二 八 | 七 七 | 七 六 | 八 五 | 一 四 | 二 三 | 十 二 | 二 一 | び |
| 三 十 | 十 九 | 八 八 | 五 七 | 四 六 | 四 五 | 六 四 | 八 三 | 六 二 | 八 一 | は |
| 二 十 | 四 九 | 四 八 | 一 七 | 九 六 | 三 五 | 二 四 | 四 三 | 三 二 | 一 一 | ゆ |
| 八 十 | 六 九 | 九 八 | 三 七 | 十 六 | 一 五 | 四 四 | 九 三 | 五 二 | 四 一 | か |
| 五 十 | 七 九 | 一 八 | 二 七 | 六 六 | 六 五 | 七 四 | 一 三 | 九 二 | 七 一 | い |

⇒{人るれ乗に車等三}⇐

| 待 人 | 戀 愛 | 縁 談 | 貧 富 | 信 用 | 賣 買 | 日 的 | 旅 行 | 天 候 | 運 勢 | |
|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|---|
| 十 十 | 一 九 | 八 八 | 七 七 | 四 六 | 六 五 | 三 四 | 七 三 | 二 二 | 九 一 | き |
| 五 十 | 九 九 | 一 八 | 六 七 | 十 六 | 十 五 | 七 四 | 一 三 | 十 二 | 一 一 | し |
| 四 十 | 二 九 | 十 八 | 九 七 | 一 六 | 一 五 | 五 四 | 十 三 | 三 二 | 八 一 | や |
| 六 十 | 五 九 | 二 八 | 四 七 | 八 六 | 三 五 | 十 四 | 三 三 | 九 二 | 二 一 | の |
| 三 十 | 八 九 | 九 八 | 二 七 | 五 六 | 四 五 | 一 四 | 六 三 | 五 二 | 七 一 | た |
| 七 十 | 四 九 | 三 八 | 五 七 | 二 六 | 七 五 | 四 四 | 九 三 | 八 二 | 三 一 | び |
| 二 十 | 七 九 | 七 八 | 十 七 | 七 六 | 八 五 | 二 四 | 四 三 | 四 二 | 六 一 | は |
| 八 十 | 十 九 | 四 八 | 八 七 | 三 六 | 五 五 | 八 四 | 八 三 | 七 二 | 四 一 | ゆ |
| 一 十 | 三 九 | 十 八 | 三 七 | 九 六 | 二 五 | 六 四 | 二 三 | 二 二 | 五 一 | か |
| 九 十 | 六 九 | 五 八 | 一 七 | 六 六 | 九 五 | 九 四 | 五 三 | 一 二 | 十 一 | い |

⇒{人るれ乗に車等一}⇐

| | | | | | | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---|
| 待 人 | 戀 愛 | 絲 談 | 貧 富 | 信 用 | 賣 買 | 日 的 | 旅 行 | 天 候 | 運 勢 | |
| 五ノ 十 | 九ノ 九 | 一ノ 八 | 二ノ 七 | 十ノ 六 | 六ノ 五 | 三ノ 四 | 七ノ 三 | 九ノ 二 | 七ノ 一 | き |
| 八ノ 十 | 五ノ 九 | 九ノ 八 | 三ノ 七 | 二ノ 六 | 一ノ 五 | 五ノ 四 | 五ノ 三 | 五ノ 二 | 四ノ 一 | し |
| 三ノ 十 | 三ノ 九 | 四ノ 八 | 一ノ 七 | 五ノ 六 | 三ノ 五 | 八ノ 四 | 三ノ 三 | 三ノ 二 | 一ノ 一 | や |
| 六ノ 十 | 一ノ 九 | 八ノ 八 | 五ノ 七 | 九ノ 六 | 八ノ 五 | 九ノ 四 | 六ノ 三 | 六ノ 二 | 八ノ 一 | の |
| 二ノ 十 | 二ノ 九 | 二ノ 八 | 七ノ 七 | 七ノ 六 | 四ノ 五 | 十ノ 四 | 十ノ 三 | 十ノ 二 | 二ノ 一 | た |
| 一ノ 十 | 八ノ 九 | 十ノ 八 | 六ノ 七 | 四ノ 六 | 七ノ 五 | 一ノ 四 | 二ノ 三 | 二ノ 二 | 六ノ 一 | び |
| 四ノ 十 | 七ノ 九 | 六ノ 八 | 八ノ 七 | 八ノ 六 | 九ノ 五 | 六ノ 四 | 八ノ 三 | 八ノ 二 | 九ノ 一 | は |
| 七ノ 十 | 六ノ 九 | 三ノ 八 | 十ノ 七 | 六ノ 六 | 五ノ 五 | 二ノ 四 | 四ノ 三 | 四ノ 二 | 三ノ 一 | ゆ |
| 十ノ 十 | 十ノ 九 | 七ノ 八 | 四ノ 七 | 三ノ 六 | 二ノ 五 | 七ノ 四 | 九ノ 三 | 七ノ 二 | 五ノ 一 | か |
| 九ノ 十 | 四ノ 九 | 五ノ 八 | 九ノ 七 | 一ノ 六 | 十ノ 五 | 四ノ 四 | 一ノ 三 | 一ノ 二 | 十ノ 一 | い |



- 一 極よろしいです本年中は！
- 二 晴れますから御安心なさい
- 三 無事ですす平和です泰平です
- 四 秩序的にやれば成就します
- 五 亂高下の兆あり御用心々々々
- 六 恢復する事が目下の急務です
- 七 金満家とは行きませんが先づ中流
- 八 初めは水が入りますが末は八千代の玉椿
- 九 明日あたりは一大快報がね……あの人から！
- 十 事によつたら永久に來ませんよ

二

- 一 唯今が幸運の絶頂です
- 二 風は少しありますが晴れです
- 三 氣遣ひありません
- 四 計畫はよろしいがあなたの精力が少し心配だ
- 五 賣るのは損です
- 六 マア〜よい方ですよ
- 七 御氣毒だが金に縁遠い様です
- 八 先方は喜んで應じます
- 九 手鍋さげても……どあの人は謂つて居升よ
- 十 來ますとも明日か明後日あたりには

三

- 一 丁度階段を登る様に日一日とよくなり升
- 二 二三日は続きます
- 三 懐中物に御用心なさい
- 四 神様は屹度守つて下さいますよ
- 五 賣るべし賣るべし
- 六 今の態度を永久に持續すれば
- 七 樂は苦の種てい事を御存じです乎
- 八 御當人同志の御約束計りではいけません
- 九 大あつ〜ですぬ
- 十 噂をすれば影とやらです

四

- 一 悪いです、今の處は御注意なさい
- 二 午後から雨模様
- 三 別段大した事はありません御安心なさい
- 四 チト考物です目上の人に御相談なさい
- 五 時は來れり買ふべし買ふべし
- 六 大丈夫落る事はありません
- 七 あなたは貧的を好まないでしやう、だから御勉強々々々
- 八 可もなく不可もなしです御一考を要し升な
- 九 いつかりしないとだまされまますよ
- 十 明日は屹度來ますよ

五

- 一 來月から持直します
- 二 空には一片の浮雲なしです
- 三 乙で而して愉快な事が有り升
- 四 チト考物です
- 五 のるかそるか遣つて御覽ん
- 六 先づ／＼有る方でしやう
- 七 賣家と唐様で書く三代目などは感心しませんよ
- 八 善は急げです
- 九 それは磯の何んとやらでは有りまんか
- 十 待つたつて駄目ですよ

六

- 一 此處鳥渡行きなやみの形です
- 二 曇りますすけれども雨にはなり升まい
船よりは汽車がいゝです
- 三 第二の目的の方が成功が早いです
- 四 思つた通り直ぐ決行なさい
- 五 少し下り阪となりました御用心々々々
- 六 金は或時には敵です而しその敵に巡り逢ふ様にしなければなりません
- 七 調ひますのは先づ明年です
- 八 先^{さき}じやさほごにの部では有りません乎
御生憎様オホ、
- 九
- 十

七

- 一 茲二三ヶ月悪いです
- 二 半晴半曇
- 三 大した事は有りません
- 四 どうです其思附をかへては！
- 五 マア雲行を見てからです賣るのも買ふのも
有りますよあの人だけに
- 六 あなたの主義なら金などはどうでもいゝぢや有りませんか
- 七 さうや^{いゝ}き^{いゝ}も^{いゝ}さ^{いゝ}と急ぐものでは有りません
- 八 あなた計り熱度を上げた所がつまら無いぢや有りませんか
- 九 笑顔で以て來ますよ逢ひにさ
- 十

八

- 一 よろしいです今のところは……
- 二 雨々々々々
- 三 隣の人に氣を付けなさい
- 四 達しられ升事は達しられ升が少し遅い
- 五 買ふなら今お買ひなさい
- 六 縮るなら今ですさうでないと狐のやいどでコンキウし升よ
- 七 塵も積ればの主義を御とりなさい
- 八 不贅者の多い縁談は永久的ではありません
- 九 手紙などの遣り取りは第一危険極まるです
- 十 少し遅いですが來ますよ

九

- 一 二ヶ月後から段々よくなり升
- 二 晴天です而し午後から曇りますよ
- 三 氣を附けないと荷物が紛失しますよ
- 四 精神一到何事が成らざらんやです
- 五 今お賣りなさい丁度いゝ時です
- 六 大丈夫金の草鞋
- 七 あなたの後半世はリッチマン(富豪)です
- 八 調ひます而し少しは口説があります
- 九 所謂相惚れと云ふのですマアお楽しみなこと
- 十 來ません断じて來ません

十

- 一 直ぐよくはなりません兎も角時節をお待ちなさい
- 二 雨です而し後に晴れます日本晴れに
- 三 道中無事です安心なさい
- 四 至極いゝです遣るべし遣るべし
- 五 買ふのは鳥渡お待ちなさい下落の兆があり升
- 六 少し怪しい折角お勉強が肝心です
- 七 かせぐに追附く貧乏なしですからね
- 八 チト六ヶ敷いですマア止した方が得策です
- 九 熱度にしたら五十度位です今一息ね…………
- 十 来ませんよ逢へませんよお氣毒様ねへ

明治四十五年五月十八日印刷
 明治四十五年五月廿一日發行

因幡
 岩井温泉誌
 定價金 錢

編輯人兼

芝岡節太郎
鳥取縣岩美郡岩井村大字
 岩井宿六十一番屋敷

印刷者

市田幸四郎
神戸市元町通貳丁目

印刷所

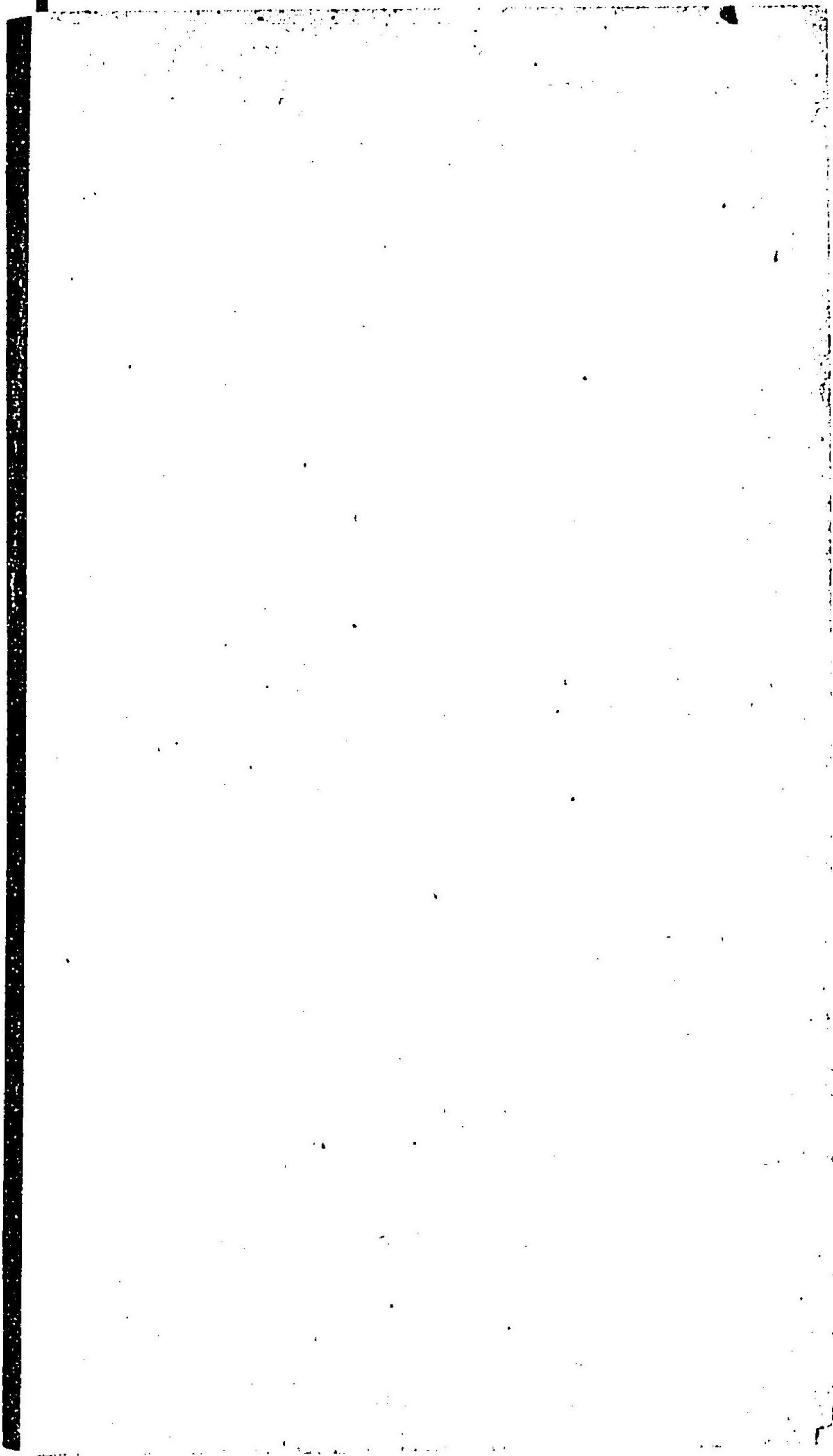
東京凸版印刷株式會社
關西市 田印刷所
代理店 神戸市元町通貳丁目

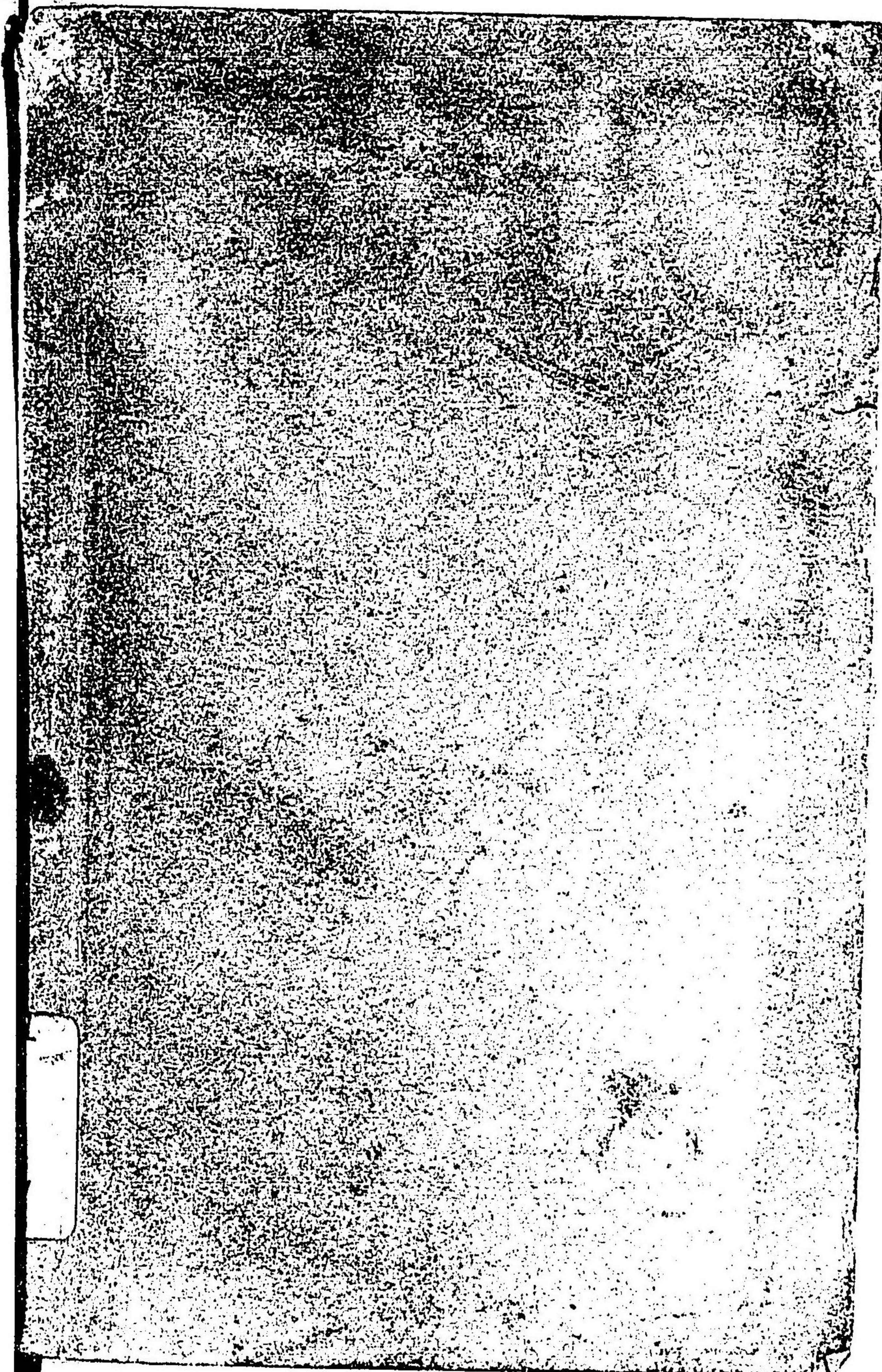
不許
 復製

發行所

鳥取縣岩美郡岩井村大字岩井宿
 岩井温泉組合事務所

270
166





025774-000-1

特61-757

岩井温泉誌（因幡）

森永 清畔／編

M45

ADC-3311

